

2010年度

科目名	仏教学A			
担当教員	貫名 讓			
配当	文 1・教育1・人間1	コード	25100	
開期	前期	講時	火曜日5限	単位数
授業テーマ	『歎異抄』にみられる親鸞の仏教観			
目的と概要	親鸞に大きな感銘を受けた唯円によって著された『歎異抄』を読みながら、その中に表される親鸞の仏教観をうかがっていききたいと思います。『歎異抄』は親鸞の書いたものではありませんが、前半部分は親鸞の言葉として表されていますので、言葉の一つ一つに親鸞の心が如実に表されていると思います。後半部分は、親鸞の教えを唯円なりの解釈でもって表現していきます。前半の文章も後半の文章も、それらは、現代にも生き生きとして語りかけているように感じられます。本講義では、『歎異抄』の前半部分(第1条～第10条)を読みながら、親鸞の仏教観に触れてみたいと思います。			
成績評価法	総合評価(平常点・レポート課題の提出)			
テキスト	歎異抄／梯 實圓解説／本願寺出版社編			
参考書				
履修に当たっての注意・助言				
講義計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義概要と講義の進め方 2. 『歎異抄』の概略 3. 序：唯円の思い 4. 第1条：信じる心とは 5. 第2条：よきひとのおほせを聞いていく 6. 第3条：善人よりも悪人の方が救われる(!?) 7. 第4条：小さな慈悲と大きな慈悲 8. 第5条：念仏は先祖供養ではない 9. 第6条：私(親鸞)には弟子は一人もいない 10. 第7条：念仏者は何ものにも妨げられない 11. 第8条：念仏は私のものではない 12. 第9条：念仏を称えても喜びの心がわいてこないのはなぜ？ 13. 第10条：ありのままの心 14. まとめ 15. 課題 				